

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071101234		
法人名	医療法人 恵光会		
事業所名	グループホーム ライフエイド柏原		
所在地 (電話番号)	〒811-1353 福岡市南区柏原1丁目2-46 (電話) 092-565-2457		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成20年11月19日	評価確定日	平成20年12月24日

【情報提供票より】(H20年11月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 14 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独		新築 / 改築	
建物構造	鉄骨		造り	
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	(有) (家賃の6ヶ月分)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 (無)	
食材料費	朝食	420 円	昼食	525 円
	夕食	630 円	おやつ	105 円
	または1日当たり	1,680 円		

(4) 利用者の概要 (11月2日現在)

利用者人数	17 名	男性	0 名	女性	17 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	原病院、野口内科クリニック、こうせい歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体が病院であることから医療連携体制が確保され、利用者・家族も安心してホームで生活することができている。また、地域との交流において単に地域行事に参加するだけでなく、地域住民を対象とした健康医療相談会等を開催したり、地域災害の際には避難場所を提供することになっており、地域連携も構築されつつある。年間行事は 花見 夏祭り 食事会 敬老会 音楽会 文化祭 バス旅行 紅葉狩り クリスマス会 初詣 誕生会 花畑公民館教室(毎月) お茶会(毎月)等数多く計画され、実行されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価での指摘事項は 金銭出納帳のコピーと領収書が家族に送付されていない アセスメント記録に作成者の記載漏れがあった 居室ドアが開放されていたの3点であったが、スタッフ全員で協議・検討され改善が認められる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は項目ごとに職員に振り分け、ミーティングで話し合わせ、その結果は管理者により取りまとめられている。今回の自己評価では「取り組んでいきたい項目」の欄にチェックがつけられていなかったが、ミーティング等では業務改善及びサービスの質の向上に向けた検討が行われている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>会議には町内会長、副会長、民生委員、地域包括支援センターの介護支援専門員、近隣住民、家族等が参加し、行事予定、活動報告、運営状況等について話し合われている。地域住民を対象とした「健康医療相談会」は運営推進会議により実現された活動である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>ご意見箱が玄関に常設されている。意見・苦情についてはミーティング等で話し合い、運営に反映されている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、地域行事に積極的に参加している。日頃の散歩の際は挨拶を交わしたり、地域の運動会等にも参加している。地域に根づいた事業所となるべく、地域住民を対象とした健康医療相談会が開催されたり、地域災害の際の避難場所として地域に開放している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域住民の一人としてその人らしく暮らし続けられることを支援します」と地域に密着した事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホームの理念はミーティングで唱和され、職員のヒアリングからも理念の内容が理解出来ていることが確認できる。理念の実践に向け地域の美容院に出かけたり、八百屋で買物したり等、外出の機会を増やし、地域行事にも積極的に参加している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域行事に積極的に参加している。日頃の散歩の際は挨拶を交わしたり、地域の運動会等にも参加している。地域に根づいた事業所となるべく、地域住民を対象とした健康医療相談会が開催されたり、地域災害の際の避難場所として地域に開放している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果について話し合われたことがホームのミーティング議事録にて確認出来、職員のヒアリングからも前回の外部評価の指摘事項を把握していることが確認出来る。自己評価は項目ごとに職員に振り分け、ミーティングで話し合い、管理者が取りまとめるようにしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は同系列のグループホームと合同で2ヶ月に1回開催されている。会議には町内会長、副会長、民生委員、地域包括支援センターの介護支援専門員、近隣住民、家族等が参加し、行事予定、活動報告、運営状況等について話し合われている。会議にて地域住民を対象とした健康医療相談会が開催されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護対象者の訪問リハ等を含め、医療・介護保険で不明なことは市町村に相談している。その他市町村が開催する研修会等にも積極的に参加している。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	外部研修の受講記録があり、職員へ伝達されていることが記録より確認出来る。また、現在2名の入居者が成年後見制度を利用しており、職員のヒアリングからも本制度等について理解していることが確認出来る。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時、担当者会議、便り等で暮らしぶりや健康状態、職員の異動について報告をしている。また、家族会は6ヶ月に1度開催され、ビデオ、スライド等で普段の暮らしぶりを紹介している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱が玄関に常設されている。意見・苦情についてはミーティング等で話し合い、運営に反映されている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職、異動に関しては最小限に抑える努力がなされるとともに十分に引き継ぎを行い、利用者・家族への報告を便り等で行っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に排除されるようなことはない。職員の多くは法人内の委員会に所属し、役割・責任が持てる機会があり、また、職員の資格取得も奨励されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部・内部研修により人権教育が実施されていることが議事録より確認出来る。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として人事考課制度が導入されており、また、ホームには教育担当の係りもあり、段階に応じた教育体制が整備されている。		
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣に同系列のグループホームがあり、意見交換や勉強会等が実施され、また、法人事業者間での勉強会などにも参加し、サービスの質の向上に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が納得した上でサービスを利用できるよう2泊3日までの体験入所のシステムがあり、職員およびホームの雰囲気に馴染みながらの利用を検討している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は生活の中で梅干のつけ方、料理の味付け、園芸、らっきょうの作り方等、入居者が培ってきたものを学ぶことを大事にし、支え合う関係をつくるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴等の情報収集を詳細に行い、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、日々の支援のあり方について検討している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1度モニタリングが実施され、ケアカンファや担当者会議で本人・家族の希望をもとに話し合わせ、利用者本位の介護計画になるよう作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングの際にケアカンファを実施し、ケアプランに反映させている。また変化があった場合、担当者会議にて状態を観察しその都度見直している。その際本人・家族と話し合いを行っていることが記録より確認出来る。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	花見、夏祭り、敬老会、文化祭、バス旅行など年間行事が数多く計画されている。また、同系列のグループホームと健康医療相談会が開催され、健康への啓発活動を実施している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望するかかりつけ医での受診は可能であるが、多くは母体病院での医療的支援がなされている。受診には職員が同行している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りや重度化した場合の対応については入居時より、早期に説明することになっているが、利用者・家族の状況を見計らって説明し、同意書をいただいている。今日まで看取りは経験がなく、病院に移る場合が多い。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録類は事務室にて管理している。ホームの便りに掲載する写真など個人情報の利用においては、その都度家族の同意を得ている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかなスケジュールは決まっているが、一日の過ごし方については利用者本位で支援されている。外部評価当日は観葉植物を自室に持ち込んだり、外で植物の世話をしたり、家族と外食に行かれる利用者も見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を取り入れて作成し、職員は利用者と同席し同じ物を食べている。食事の準備、後片付けは利用者の能力に応じて職員と一緒に行われている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則週2回であるが、希望により入浴回数を増やす事が可能である。入浴は希望に応じ10時～16時まで可能である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	観葉植物の水やり、園芸、食事の準備・片付けなど利用者一人ひとりの能力や培ってきたものを大事にして支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見や夏祭り、紅葉狩り、バス旅行など行事としての外出に加え、屋外ガーデンでの食事、茶話会、散歩、買い物など戸外に出る機会が多くつづられている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は居室や玄関に鍵を掛けることの弊害を理解しており、見守りの必要な利用者には目配り・気配りによりさりげなく付き添い、日中に鍵をかけないようにしている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年4回実施され、そのうち1回は消防署と合同で行われている。運営推進会議の際に協力が得られるよう働きかけが行われている。また、事業所を地域災害の際の避難場所として提供している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の要望を取り入れて変化のある献立を提供している。毎日の食事量、水分量等も記録している。以前は栄養士により献立や栄養量について確認される仕組みがあったが、現在は休職中のため出来ていない。		母体の病院とは連携がとれているので病院栄養士に献立管理面で相談し、利用者の要望を取り入れた献立がさらに充実したものとして(栄養バランスがよく整えられているかなど)確認しながら食事が提供されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は静かで、室温等にも配慮している。居間は明るく、ほど良い季節感が取り入れられ、利用者にとって居心地よく過ごせるよう支援している。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で利用していた家具や仏壇、写真など利用者の馴染みのある物品が居室に持ち込まれ、利用者本人が居心地よく暮らせるよう支援している。		